

ひらんぼ



コロナ禍で災害が起きたら?



もしも、台風や大雨、また地震が起こったら、皆さんは避難所へ行きますか？

8/23 (日) 開催

サプリ村野は、枚方市の一次避難所に指定されていますので、

非常時には地域の方などが避難されます。

そこで、8月23日に、避難所開設・運営訓練が行われました。

派遣職員の方、サプリ村野近隣の地域役員の方を中心に、災害時の避難方法や、避難所での受付方法、健康チェックの手順などを確認しました。

また、保健師さんより、コロナ禍での感染症予防と熱中症予防についてお話しいただき、貴重な時間となりました。

段ボールベッドや避難所での仕切り、簡易テントなども見せていただきましたが、避難所では全ての物がそろっているわけではありませ

ん。

特に、水や食料は消費期限もあり、避難

所で備蓄しておくことができないため、個人それぞれが最低限の非常持出品を持って避難する必要があります。

また、人によつては、常備薬や入れ歯、乳幼児には、ミルクやオムツなど、自分や家族に必要な物は自分たちで用意する方が安心です。

コロナ禍では、三密を避けるため、避難所以外の安全な場所でも身を守る選択肢も考えられます。

いざという時に慌てない準備が大切です。



サプリ村野避難所開設訓練

9/13
(日)
開催

国境なき医師団 活動報告会 ～最貧国 マラウイの現状～



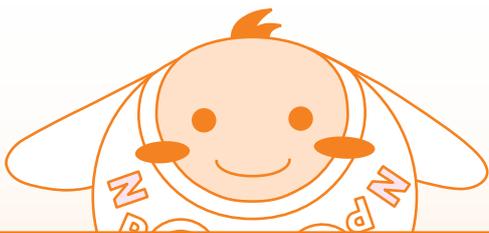
国境なき医師団・手術室看護師
佐藤 真史 氏

臨場感に溢れた1時間の講義はあっという間に終わりました。それから5つのグループに分かれてディスカッション。その後、佐藤さんが質問に答えてくれて、集合写真を撮って皆さん退出です。

オンライン会議システムZoomを使用した報告会に参加しました。参加者は20人ほどで、パソコン、タブレット、スマホなどから入室します。
講師は「国境なき医師団」の佐藤真史さん。内容は、この1月から4月まで、コロナ禍のアフリカにあるマラウイでの活動についてです。
国境なき医師団は1971年にフランスで設立され、その功績によって1999年にはノーベル平和賞を受賞しています。「独立・中立・公平」の理念のもと、年間2000億円ほどの活動資金のほとんどを民間の寄付金で賄っています。スタッフは全世界で4万5千人（2019年度）ほどもです。
佐藤さんは今までにも、パレスチナやイラクに派遣経験があり、看護手術室のマネージャーとして活動されました。マラウイでは最大都市、ブラントイヤにあるクイーンズ・ホスピタルで主に子宮頸がんの治療に従事していましたが、そこにコロナ禍です。3月20日には国家災害宣言が出され、23日には学校が休みになりました。生徒たちの献血に頼っていたため、それが減ってピンチになったそうです。4月1日にはエアラインがストップ。14日にロックダウン宣言があったので、急遽、18日に日本政府がチャーターした便で帰国したそうです。



「WEB端会議」



まちづくり井戸端会議

- 日時：2020年11月17日(火)
18：30～20：00
 - 場所：サプリ村野 市民活動研修室
 - 三大ルール：①自由参加②批判しない
③テーマを決めない
- ※申し込みは必要ありませんので、直接会場にお越しください。
- 問合せ
ひらかた市民活動支援センター
TEL：072-805-3537
FAX：072-805-3532
Eメール：info@hirakatanpo-c.net

11月から、密を避けながら通常の「まちづくり井戸端会議」を開催します。体調の悪い方の参加はご遠慮しますが、マスク着用で、ぜひご参加ください。



まちづくり井戸端会議は、テーマを決めず、いろんな方が集まって、わいわいがやがやと話す場です。しかしながら、コロナ禍では、皆が集まることができず、始まったのが「WEB端会議」。6月から始めて、9月までに6回、Zoomを使い、オンラインで行いました。内容としては、Zoomの使い方から始まり、コロナ禍での悩みや、今だからこ

私はオンラインでの講座に初めて参加しましたが、遠くは滋賀の方も参加され、三密を避けるためにいいシステムですね。これから普及していくでしょう。また、気楽な年金生活者の私にとつて、危険を冒して海外で活躍される国境なき医師団の方々には、頭の下がる思いです。私たちができることと言えば寄付をすることですから、皆様もよろしく願います。
(文/向井 範雄)

寄稿募集

コロナ禍で大変だったこと、Go Toの体験談など、何でも結構です。寄稿文をお寄せください。また、自宅からの景色やまちの様子などの写真も募集中です。お寄せいただいた文や写真は、ひらかた市民活動支援センターの広報紙や情報紙、またはFacebook等で掲載させていただきます。

■問合せ・送り先

ひらかた市民活動支援センター
TEL: 072-805-3537
FAX: 072-805-3532
Eメール: info@hirakatanpo-c.net

登録団体ガイド



ひらかた市民活動支援センターの登録団体の活動紹介をまとめた「登録団体ガイド」をホームページに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。
<http://hirakatanpo-c.net/aboutus/structure/tourokudantai>



寄稿

コロナとわたし

はじめてのオンライン



コロナはショックでした。自分の最後がすぐそこに來てるかもしれない。家にこもり、自分の歴史が浮かび、自分の性格もチェック。夫との二人暮らしも、家では夫の意見尊重、自分は外に出て、ボランティアなどで、若い友だちをたくさん作りました。これからは家を本拠に、夫婦二人の最後まで、ひたすら守りの生活になるのか。

ところが世の中ウイズコロナで、忙しい日常が帰ってきた頃、ひらかた市民活動支援センターから、オンラインでの会議参加を勧められました。初めてのことで、台所で、スマホを自分の顔と同じ高さで固定、自撮りで練習。いざ本番は私の声だけが会場に聞こえ、姿は画面右上に小さく、よく見れば静止画像。時々「高橋さんの意見は」と聞かれて答える緊張の1時間でした。新しい形で、ボランティアができ、夫もズームで同窓会など、新生活スタイルは手探りです。でもおもしろい会話がはずむのは、対面してこそと、大阪のおば(あ)ちゃんの私は考えています。(高橋 佳子)



コロナ禍にNPOができること

というシステムを使ったの實施だったので、オンラインでどう開催するかの確認もできました。サプリ村野内の研修室も、wifiが使えるように整備し、当面は、オンラインと並行しながら、講座等が実施できるようにしていきたいと思えます。サプリ村野学校も、10月から順次再開します。感染対策を徹底しながらも、市民活動を継続していくための支援と準備をしていきたいと思えます。皆様もマスク着用で、参加してください。



NPO基礎講座



「SDGs de 地方創生」カードゲーム

コロナ禍で今年前半は、なかなか思うように活動できない日々でした。しかしながら、困難な時ほど、力を発揮するのが、NPOや市民活動！ということ、まずは、ひらかたNPOフェスタをWEBを通じて実施することを計画。各団体に動画を準備してもらったり、動画がない、または作れないという団体は、大学生に撮影・編集をお願いしたりしました。初めての試みでスタッフや団体とも大変な作業でしたが、年内には試写会を実施する予定です。

また、例年開催していたNPO講座やサプリ村野学校も9月まで開催できなかったのですが、まずは自分たちが学び、スキルアップしようと、サプリ村野内の職員やボランティアさんを中心に、「NPO基礎講座」や「SDGs de 地方創生」カードゲームなどを行いました。また、この間、オンラインの研修にも参加し、全国で実施されている貴重なセミナーや講演を受講するだけでなく、多くはZoom



【WEB】ひらかたNPOフェスタ撮影風景



シュフから始まるまちづくり

枚方市は現在、人口流出・少子高齢化が課題とされており、このままでは今後ますます進んでいくと考えられます。人口流出を防ぎ、人口増加を促せる「まち」とは、どのような「まち」なのかを考えた時、私は主婦に注目し、主婦が感じる「まち」の魅力を探ってみようと思いました。

なんで主婦なの？

まず始めに、なぜ主婦に注目したかといいますと、その町に住む理由として「スーパーが近くにあるか」、「家から学校が近いか」、「医療は充実しているか」といった住むための条件について、家族の中で一番、主婦に発言権があるのではないかと考えたからです。主婦の皆さんが住みやすい町になれば、町を離れていく理由が少なくなり、住みたい理由が増えることで人口も子どもの数も増えて、少子化対策にもなるのではないかと考えました。

住みやすいまちに必要なもの

主婦の皆さんの求めるものは何かを探るために、株式会社いいねいねドットコム の代表、衣笠さんにお話を伺いました。私は最初、スーパーが近くにある町が、主婦にとって住みやすいのではないかと考えてましたが、スーパーがあるから人が集まるのかどうかはわからないが、スーパーが集まれば集まるほど競って安くなっていく、そういう



いいねいねドットコム 「いいね新聞」

意味では、主婦にとっては、住みやすい場所かもしれないということでした。それよりもよく聞くのは、どこへ出かけるにも、子どもを預ける場所が欲しいということでした。近年働く女性が増えたことが理由のようです。

また、ふらっと立ち寄れる場所を求めている人も多いようです。最近ではスーパー内の小さなスペースで本の読み聞かせをしたり、子どもが遊べるコーナーを設けているところが増えてきてはいるが、もっと通りすがりに気軽に立ち寄れるような場所が増えていけばいいということでした。

しかし、現在はコロナ対策のため、多くのところでイベント等の開催を中止しています。そんな中、サプリ村野内にある子育て支援施設の広場さぷりでは遊具の消毒作業や予約制による人数の制限など行いながらオープンしています。予約制で気軽さが薄いように感じますが、コロナ禍でなかなか外出ができない、遊び相手がいなくて悩んでいるお母さんやお子さんにとっては、今できる最大の支援であると思えました。

市の基準との比較

一方、枚方市としてはどう考えているのか、枚方市企画政策課の方にお話を伺いました。実際、保育所の対策は進んでいないものの、ふらっと立ち寄れる場所に関する対策はコスト面などで難しいそうです。しかし、民間企業と活動の協力をしたり、NPOの考えと方針さえ合えば、活動を後押



していただけるそうです。

また、枚方市では女性の意思決定と家庭所得の最大化というのも視野に入れており、所得がより増えるのであれば、女性が働いて男性が子育てをするのもひとつの形と考えているそうです。男性が「主夫」として家事や子育てに参加する意識が高まれば、住みやすいまちづくりにつながる。ひいては魅力あるまちづくりにもつながると思うので、シュフ（主婦・主夫）目線で考えられる人が増えていけばいいなと思えました。

(京都産業大学2回生・大塚 恒平)

今回の活動を通して、枚方市の魅力や良さを知って、それらをより活かせる方法を考える貴重な体験ができました。実際にまちづくりに貢献するために、日々奮闘されている方の生の声をお聞きして、まちづくりに対する熱意を肌で感じました。お忙しい中で、未熟な学生の主張に真剣に耳を傾けてくださり、それに対して、核心をついた返答もいただいて、探求意欲のわく、素晴らしい経験ができました。これからも枚方市をはじめとするさまざまな市町村の魅力について調べて、

たくさんの方と比較しながら、より良い町が一つでも増えていく方法を追究していきたいと思いた



大塚 恒平くん



インタビュー 企画

子育て支援にICT活用を!

枚方市では定住促進を大きな目的に、子育て支援に力を入れています。特に最近あらゆる分野で導入されている「ICTの活用」が、今後の子育て支援の発展につながるのではないかと思います。

そもそもICTってなに?

ICTとはPCやタブレットなどの機器を用いて情報や技術を扱うことです。ICT活用で、速く正確に情報処理したり、また対面など密接に触れ合うことを減らすことができます。

コロナ禍で、子育て世帯によるスマートフォンやタブレットの使用が当たり前となってきたからこそ、子育て支援での活用を進めるべきだと考えました。

子育て支援のICT活用

まず、「動画配信」などに取り組んでいる「広場さぷり」の方にお話を聞きました。広場さぷりでは、コロナがきっかけで、親子で楽しめる遊びや育児情報の動画をSNS上で配信し始めました。コロナ禍で施設が一時閉館中に、短くためになる情報が動画で提供されたため、利用者から「安心して、ありがたかった」といった声が届いた



「広場さぷり」の動画配信



子育て応援アプリ「スマイル☆ひらかたっ子」

そうです。このように子育て中の保護者の不安解消につながり、また、複数のSNSを利用して、多くの保護者が視聴できるのは、ICT活用の強みだと思います。

次に、枚方市子ども未来部私立保育幼稚園課の職員さんからお話を聞きました。平成30年から枚方市が配信している、子育て応援アプリ「スマイル☆ひらかたっ子」は、予防接種のスケジュールを自動で作成してくれる機能や地域の子育て関連のイベント情報をプッシュ通知で受け取ることができる機能を備えています。住所を登録することで自分の地域の情報を受け取れます。

しかしながら「登録が面倒」という意見があり、登録の簡易化やアプリ内の機能向上を検討されるそうです。実際のアプリに私も登録してみました。必要な情報のみ受け取ることができるのは、とても便利だと感じました。

今後のICTと子育て支援

現在、枚方市の子育て支援の課題として、保育所に入れない待機児童の問題や、保育士の不足があるようです。これらの課題に対し、保育支援してくれる方とサポートを希望する保護者をつなげてくれるマッチングアプリがあればいいなと思いました。

ただし、保育支援をしてくれる方は、市の審査によって承認された方に限定し、サポートを希望する保護者が安心して預けられるシステムが必要です。ICT活用はデメリットを踏まえた上でも、やはりこのご時世では得られる効果は高く、取り組む価値はあると思います。

(奈良女子大学1年生・野村 寿鶴)



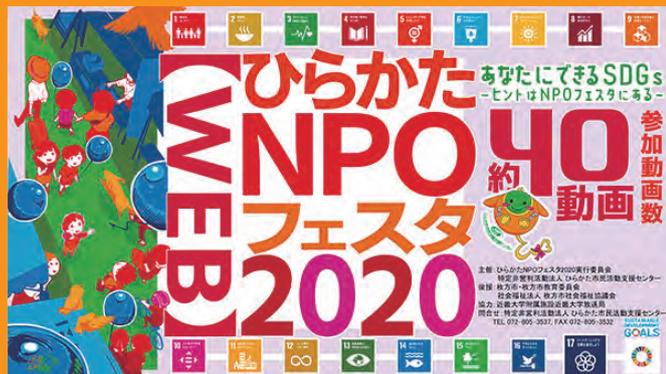
野村 寿鶴さん

社会経験を積みみたい、興味があった取材や広報作成などの活動を通してコミュニケーションや発信力を付けたいと思い、今回のインタビューに参加しました。伝える能力が身に付いたとはいえないものの、アドバイスをいただいたことを常に心掛けて考えたり話したりするようになりました。また、計画がうまくいかなかった時のことも考え、先を見越して早めに行動することの大切さを学びました。

二カ月間はあっという間で、活動が思うように進まず悩むこともありましたが、一緒に活動したインターン生や機関の方々、学生スタッフさんのサポートがあったから投げ出さず、活動を継続できたと思います。社会で必要となるスキルだけでなく人として

成長できる経験が詰まったインターンシップになりました。今後大学生活の中でも生かしていきたいと思えます。

【WEB】ひらかたNPO フェスタ2020



9月27日に予定していた「ひらかたNPOフェスタ2020」は残念ながら中止となりました。

しかし、こんな時だからこそ、コロナ禍でも各々ががんばって活動しているNPOや市民団体の皆さんと共に元氣な枚方、元氣な市民活動をPRするために、「【WEB】ひらかたNPOフェスタ2020」を開催します！

現在、2021年1月公開に向けて準備中です。参加動画、40作品の公開日は12月中に発表します。

詳細は、ひらかた市民活動支援センターHP内のひらかたNPOフェスタのページやFacebook等で、順次お知らせしますので、お楽しみに～♪

★ひらかたNPOフェスタ

<http://hirakatanpo-c.net/npofesta>



高校生・大学生ディスカッション

HIRAKATA

Think & Action for 2030

～「理想のまち」へ

枚方の10年後をつくるのは、君だ～

10年後に理想的な「まち」であるために、
どんなことをしていけばいいのか・・・

明日からできるアクションを、
枚方の高校生・大学生で考えよう！

■日時：2020年11月14日(土)13:30～17:15

■場所：枚方市市民会館3階

■内容：1、オリエンテーション
「SDGs de 地方創生」カードゲーム
2、ディスカッション

■参加費：無料

※詳細は、ひらかた市民活動支援センターHPまで。

★高校生・大学生ディスカッション

<http://hirakatanpo-c.net/support/discussion/koudaidiscussion>



編集後記

コロナ禍も少し規制が緩和され、人々もGo toと動き出しているようだが、まだまだ予断は許さない状況だと思う。全国では災害も多く発生しているが、台風も昨年よりは少なく、不幸中の幸いというところかもしれないが、こちらも油断は禁物。

こうして、私たちは例年になく緊張感の中で過ごしているのだから、気づかぬうちにストレスなるものをため込んでいる人も多いのではないかと。時には自分と向き合って自分を甘やかすことも必要ではないかと思ひ、食欲の秋を楽しんでいる毎日です。(編集者・S)

【編集・発行】

特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
〒573-0042
大阪府枚方市村野西町5-1サプリ村野内
TEL: 072-805-3537 / FAX: 072-805-3532
Eメール: info@hirakatanpo-c.net
<http://www.hirakatanpo-c.net/>



ひらかた市民活動支援センター公式インスタ
@hiracen_info



特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen



ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info

イラストだより



クラクフはポーランドの古都で、日本でいえば京都のような存在です。世界遺産になっている旧市街は歴史的な建物がたくさんあり、近くには同じく世界遺産の Auschwitz ユービッツやヴィエリチカ岩塩坑もあります。

中央市場に行き、記念の小物を買おうと思ひ、いつも通りにながらったら、ベンツがどうのこうのと、まぐし立てられました。当時ポーランドに住んでいた長男に通訳してもらおうと、「ベンツを買うんじゃないからねぎるな」とのこと。お土産をねぎって叱られたのは初めて。子どもにも「恥ずかしいから、ねぎらんとってや」と言われてしまいました。トホホ... (イラスト・文/向井 範雄)